

蓬州舊勝錄八

共拾九冊

第四門

備註	品目	年月日	製	調	費
文		昭和			第
書		年			三
證		月			号
		日			

294
ス
1-8



共十九冊

第九百七十四號

愛知郡

蒼州舊稿源 愛知郡



内基公賴子 左大臣定興公男
百治三年十一月十三

岡白信守公男
天和二年七月十七

聖元帝皇子
元祿十四年五月十二

聖元帝皇子
元祿十四年五月十二

同上帝賴子 邦永親王息
延享五年二月十八

櫻田帝御孫子 貞建親王男
安永三年十一月廿五还俗

德仁親王息
文化四年八月十一將行如寺

貞敬親王息
文化五年七月廿四一榮院

青野

和歌山県文化会館
昭 33.7.30 和
35462

A294
又
1-2

青野 勝温 卷ノ八

勝温 卷ノ八

鈴木茶編集

和歌山県

中村 千代 栗生 物部 日部 佐良大毛 野田 賢治 柳

和歌山県

和歌山県

延喜式神名帳十七巻大七小

日置ひさき 上杉我麻呂 古紙我麻呂 豊田 名神大

御田みだ 高岸たむ 川原あき 計名をる 伴副 子

成田あき 物部あき 日部あき 名神大 藤原あき 名神大

高野あき 名神大 たけあき 八坂あき 吉倉あき

高野あき 名神大 たけあき 八坂あき 吉倉あき

當郡西側 九百十二邑

名世屋 押切 崇 日比野 大秋 沼信

中世之細 平野 物産 米産 上中村 下中村

船野廻 岩塚 三原 北一色 田女子 二女子

五女子 長良 尾井 高橋 七女子 牛立

中世 久米産 八ッ庄 中修前 藤田 久

中瀬 東郷 赤出 高井 長花 大橋

荒子 中ノ編 八田 中ノ編 八田 中ノ編

本心 万町 烏虫 望一福 日産 苗津

小林 古殿 山笠前 高田 方名 北井戸

本井戸 山崎 戸部 笠寺 星津

鳴西 日野 相宗 同米 省掛 燈臺

楊 中根 新屋敷 同米 川名 石井

八度 臨田 桂田 平井 赤池 梅家

後田 野方 岩崎 本郷 尾崎 岩崎

米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

一 米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

一 米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

一 米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

一 米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

山口 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田

左邑： 枝 柳 字 方 角 田 取 取 取 取 取 取

此 左 邑 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取

一 米郷 和合 折戸 徳和 俣車 甲斐福壽

村の字 方 角 田 取 取 取 取 取 取

村の字 方 角 田 取 取 取 取 取 取

一 柳 柳 柳 柳 柳 柳

一 柳 柳 柳 柳 柳 柳

一 上 中 村

一 中 頃 村

一 二 女 村

一 大 幡 場

一 中 頃 村

一 山 中 頃 村

高島元寺
一 一丁ノ多村
村の南の方二十丁
新田

天取二階
一 沼田村
村の申の方二十丁
新田

田
村の申の方十丁
新田

一 河名村
村の申の方十丁
新田

一 吉田村
村の申の方十丁
新田

一 田舎村
村の申の方十丁
新田

一 荒井
村の申の方十丁
新田

一 井田村
村の南の方二十丁
新田

一 中根村
村の申の方二十丁
新田

一 鳴田村
村の申の方十丁
新田

一 前田
村の申の方十丁
新田

一 八尾村
村の申の方十丁
新田

一 上根
村の申の方十丁
新田

一 吉田
村の申の方十丁
新田

村の申の方十丁
新田

一 坂田村
村の申の方十丁
新田

一 吉田村
村の申の方十丁
新田

一 新田
村の申の方十丁
新田

一 米ノ木村
村の申の方十丁
新田

一 吉田村
村の申の方十丁
新田

一 吉田村
村の申の方十丁
新田

村の申の方十丁
新田

一 中川
村の申の方十丁
新田

一 中ノ橋
村の申の方十丁
新田

一 吉田
村の申の方十丁
新田

一 吉田
村の申の方十丁
新田

一 吉田
村の申の方十丁
新田

一 吉田
村の申の方十丁
新田

正徳四年

一 岩枝村
新田

正徳四年
岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

正徳四年
一 岩枝村
新田

光緒九年正月

大原中三安

高田水戸

今日尾馬

右宮

古橋

中野

大原

大原

大原

中川

妙高

中村

山田

大原

加賀

同中

本下

軍

大原

大原

大原

大原

大原

大原

大原

大原

大原

大原

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

川原

妙高

中野

大原

加賀

山田

大原

加賀

同中

本下

七

佐多百太郎の村

佐多百太郎の内

池田氏持の村

同信越入の村

星越入の村

古河千太郎の村

福家平太郎の村

村方太郎の村

笠原千太郎の村

山崎源太郎の村

戸部千太郎の村

豊村 渡水又太郎の村

豊村 古河千太郎の村

荒子村 古河千太郎の村

日 塩川伯耆守の村

森村 塩川源太郎の村

藤村 古河千太郎の村

荒子村 安孫子千太郎の村

笠原村 鴨居千太郎の村

笠原村 古河千太郎の村

山崎村 山崎源太郎の村

白村 杉原流考千太郎の村

荒川長太郎

牧物長太郎

山口源理亮

高島源太郎

高相太郎

魚住太郎

山崎源太郎

豊津五郎

天竺太郎

古河千太郎

中村千太郎

古河村

古河村

星村

在入村

赤田村

荒子村

古河村

古河千太郎

古河千太郎

古河千太郎

日比千太郎

上田千太郎

古河千太郎

古河千太郎

古河千太郎

古河千太郎

古河千太郎

古河千太郎

古河村

古河村

古河村

日比村

古河村

古河村

古河村

古河村

古河村

古河村

古河村

古河千太郎の村

山中播磨守 秀政

中村

實教僧和

中村

○苗野 古跡之 順之村

是亦多邑里傳りて居る
之に下りて善書共概之なる

押切長保

六文法海寺

日蓮村長保

藤田村長保

東起村同

苗野三郎長保

古心村長保

西田村長保

長野村同

中川法多長保

相模村同

西田村長保

足付村同

野尻虎吉長保

傍野村同

西田村長保

日取長保

野尻長保

長野村同

西田村長保

河津村長保

佐々木長保

西田村同

西田村長保

西田村同

西田村長保

能備村同

西田村長保

平井村同

加藤村長保

西田村同

西田村長保

赤池村同

西田村長保

西田村同

西田村長保

赤池村同

西田村長保

西田村同

西田村長保

赤池村同

西田村長保

西田村同

西田村長保

赤池村同

西田村長保

西田村同

西田村長保

赤池村同

西田村長保

西田村同

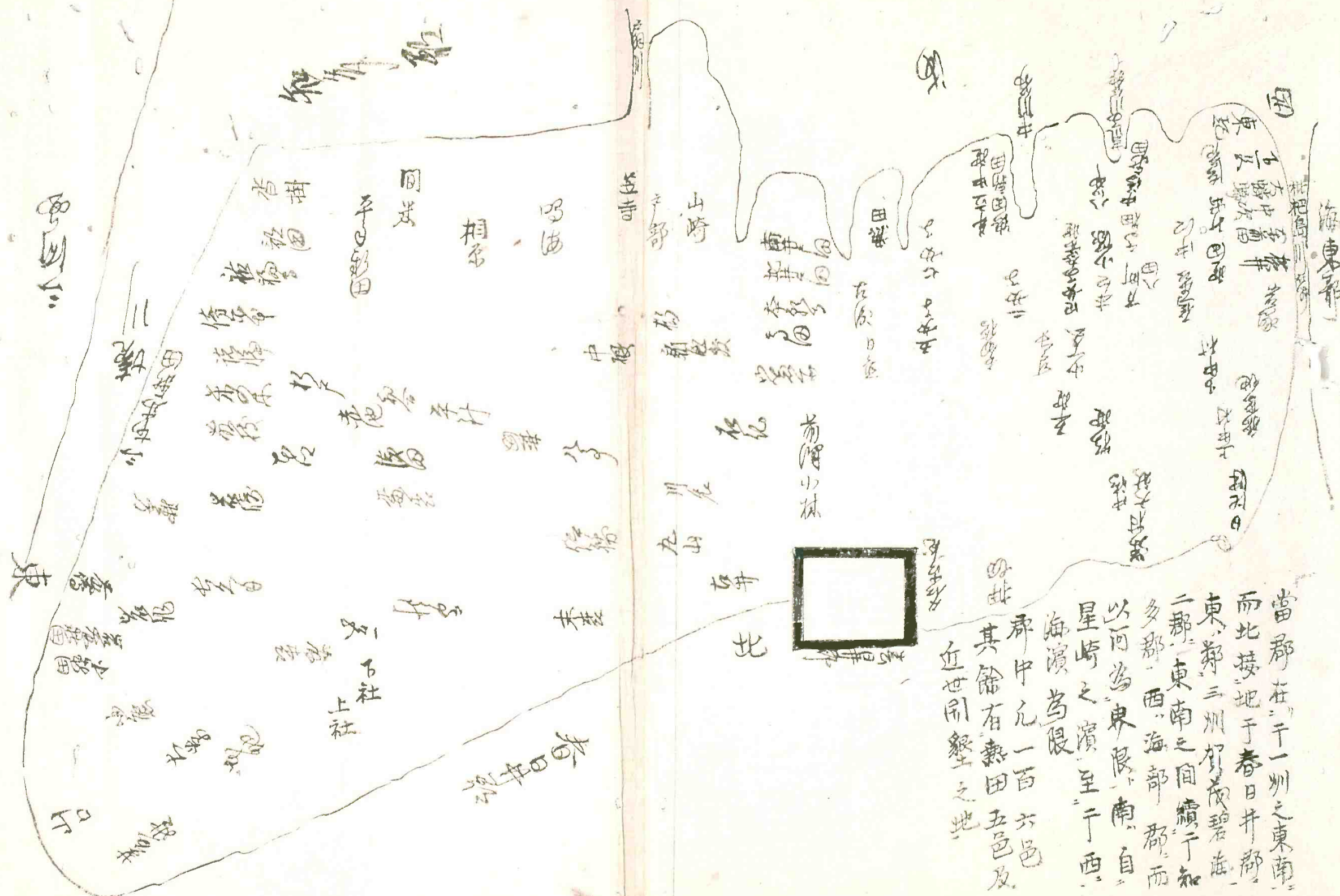
西田村長保

赤池村同 赤池村長保 西田村長保 西田村同 西田村長保

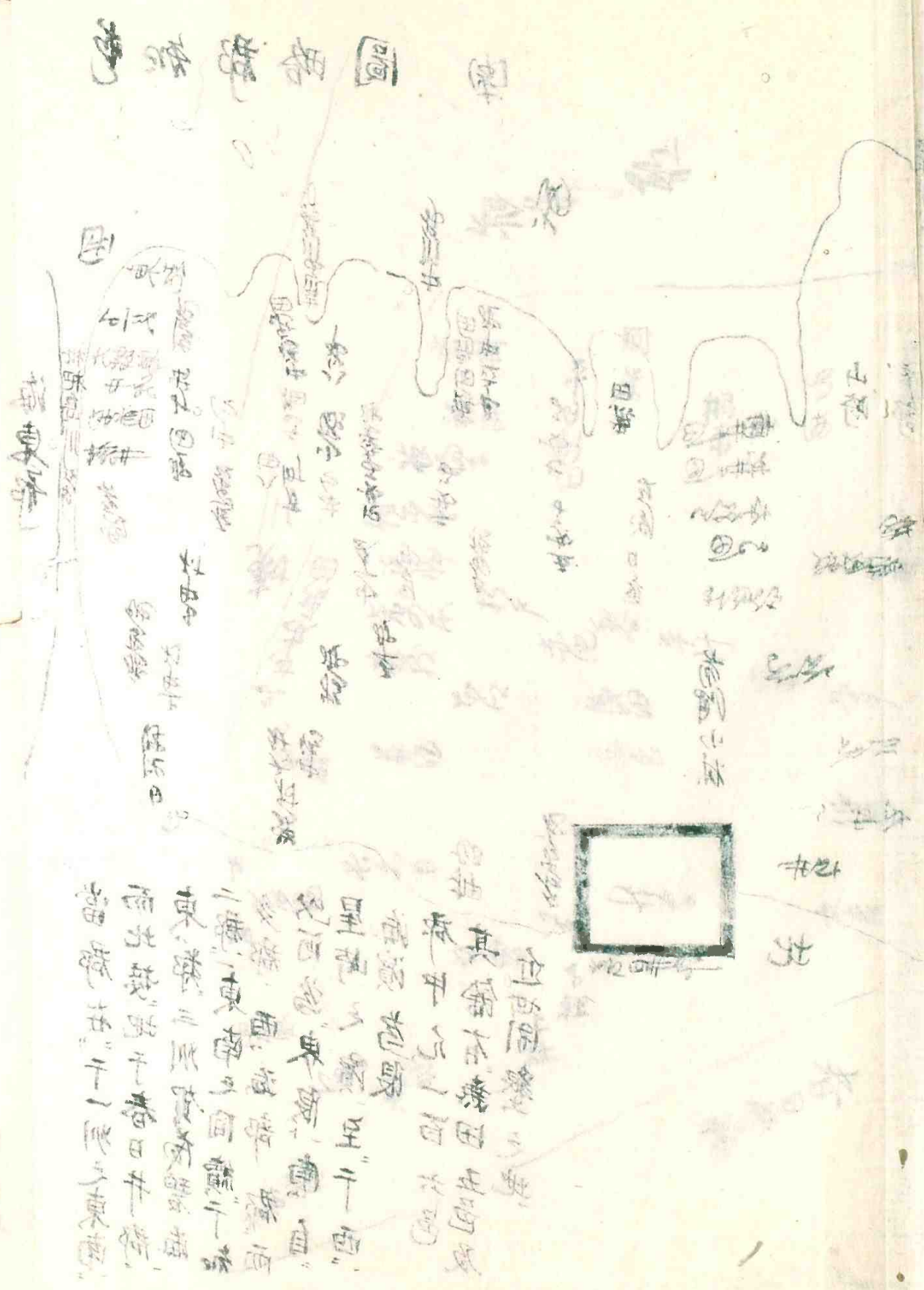
赤池村同 赤池村長保 西田村長保 西田村同 西田村長保

赤池村同 赤池村長保 西田村長保 西田村同 西田村長保

電報郡略圖



當郡在干一州之東南
 而北接地于春日并郡
 東鄰三州有茂碧海
 二郡一東南之自續干和
 多郡一西海部郡而
 以河為東限一南自
 星崎之濱至干西
 海濱為限
 郡中凡一百六邑
 其餘有熟田五色及
 近世開墾之地



中津 阿波 海東

△道号 (北に押切筋並新那境東六府下所為裏田面境 南に藝田新田海路。至り為六批相室川筋那境迄)

東門徒三州計海邊登り申 名山号 光圓寺

中津吉相打中津村に云 境地五町百石有地

古号 阿弥陀地 作不記 当古舊地こと多し用基 建創の年歴不記 院住と及十世、と云ふ、

用山光永坊

○元和七年 海廻十年 築生五年 柳多踏六市 安原里初多也 岩田池千市 市建寺有石の村と云ふの旨并 寺多也 有八人教生。中津村田畑を境一凡林を好り。 竹百姓之持棒と指出有八人と打擲江岸 衆の御心 流生八人。海邊百程。江底之斬罷。と云ふ御心交聖八歳年。

寺ノ先是夜寂人ノ一門縁中令也中興村ノ夜四村中ノ
 男女人命檢成リ大騷動及ぶ翌其年春夜込致多
 法王親臨(無知)切夜先父存體ノ者八世改易ノ作出

高田宗一月田中修吉 中を

教智山大田吉

日比津村寺境
 其父の御前降

中島 日蓮院 住石

開基 栄順坊

注古ハ天台宗也其年宗ノ
 中島 栄順坊の時開法
 而改宗付相 祖師聖人
 二十七年の時宗年在号一
 世事(其) 其年變有るお

日蓮宗一致霊得妙術寺上人

長秋山定証寺

日比津村北の端古池
 其父の御前降

開基 日棟聖人

其年 中興創

正徳五年六月十日卒

中興 開山 隨玄院 日光大徳

番 邪堂 東向 高井 薩樓堂

法号 猶菴社 寺住

祠のまに石地蔵の
 其父の御前降

右其邪堂邪像の内三體淫悪の體未強りハ近奉新に
 送り流御信靈現他(其) 其父の御前降
 其信百段多(其) 其父の御前降
 (其) 其父の御前降
 当宗二十五年(其) 其父の御前降
 部 兼俱ハ妙法寺日芳聖人(其) 其父の御前降
 懺(其) 三者三諦一即 是妙法(其) 其父の御前降
 之番者十段三禱 互具融而一元(其) 其父の御前降
 者一ハ其法自性(其) 其父の御前降

繁し河の兼俱の御方の五年申す俱の御方同書
 委一是に依く性く延久年間畝山橋南示阿闍梨良正
 法界坊に於て長白仁王菩薩像の時化現の霊瑞を感得
 一連日経夜誦記する所の神也
 當百の君信に大連明彦日蓮大士と号り地寺に所開及
 之の御堂の御堂を築く大に源理再母を存祀に同六
 五等春あ見現像と云世之建立由法事ハ委為也

白山文 天部
 海防の神(八幡文)

日比野神社
 山部氏文

崇村より其他の
 正法御神降(委為也)

本寺 觀世音

用山 朴鼎淳和尚禪師

昌温山 菊の寺
 當りの平信他より舊之中
 與ふお趣地と云ん御子
 建立時代多委年信
 寺の御子も不知之

六助田部

崇村北ノ端
 上切氏部

菰田社人
 桑田屋文 拒

祭神 塩筒雄龜
 祭神 多礼八月

〇天部寺社文

難田右部文

山社

三格

皇徳二古修成と云 崇田氏御房より塩筒雄龜の意を参りて
 今按に治法は也也也自ら南多と云 修きて 御堂に御堂
 比御神をた水ハ右の御神を島川りたべし 塩筒雄龜部と
 云も 日神より出バ六社御神 成べり 黒民修言六重反と云

〇天部宮
 八幡文

(崇村南ノ端 御殿)
 下切氏部
 天部文與ノ方
 別名あり

同
 氷室氏 拒
 同文祀 村拒

〇椿妻部部

崇社八月

崇社部部

知中岳文天

崇社部部
 崇社部部
 崇社部部

上中村 土の物好き山の方
虎月八日 多留前陣

日蓮宗

大岡山常泉寺

慶長三十八年八月十日抄

国巻院殿 信山雲物之儀 (一) 慶長三十八年

豊國大権神画像 (二) 額 慶長大権之志也
甲州侯 慶長三十八年

円山圓住院日誦初尚 元禄元年十月十日

鬼の母神 邦君 見初云 柳多附
其作下云 柳堂 安至
○ 狗骨樹 (堂南に在り 慶長
初日の比有)
其作下云 柳堂 安至

付室荒巻

○ 信長公影像 東市 ○ 天隔天非多號 慶長三十八年 ○ 信正由約

○ 信長公影像 東市 ○ 信長公自記 ○ 長久白湖神大画像

○ 秀吉去遊山花見ノ記一冊 慶長三十八年 信長公自記
○ 秀吉去遊山花見ノ記一冊 慶長三十八年 信長公自記

○ 秀吉去遊山花見ノ記一冊 慶長三十八年 信長公自記
○ 秀吉去遊山花見ノ記一冊 慶長三十八年 信長公自記

信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記

信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記
信長公自記 慶長三十八年 信長公自記

在名と云ハ肥後守 甚高の如きの他しく藤倉と云 甚正の如き
秀高の如堂と云 妙妙ありたりたり 亦イニ彼堂六光昭著
寺別名と云 妙の如き云々 ときき

○御祭天神

上中村 相殿多弁

社人五取等

実ハ五條の云外を參向 坐位位の代り菅原五郎と云下取
遠くと云正月十五日 祀奉 同邑物ありなり

天台宗三ノ丸寺の御院志

○上中村古境

本寺の菩提如來 脇立ニ仏并
重仏作ある

信吉開基長山

中興

寛永七年七月に在り化
宿坊信吉

八幡社

(長安寺東ノ方ニ在り)
社地ニ及五畝有之云々

御殿
多取

大門あり

自村ハ往昔御祭 長山 甚正の建立 弘治年山下市正の再
立と云 別今の祠是之 祭礼毎正月十七日 尚邑の氏子
西人麻子下 总用 的矢 的器 幼く 警 在 入 別 寺
掘り 除 止 御 祭 事 子 夫 子 御 前 御 長 山 ち 社 務
長 山 上 下 長 山 御 祭 一 枝 あり

尾州也 知 郡 上 中 村 住 人 御 祭 御 長 山 主 持 御 勝 殿
奉 建 立 兩 社 八 幡 大 菩 薩 大 権 御 如 藤 主 計 長 久 故 也
天正十八年 御 祭 御 長 山 御 祭 御 長 久 故 也 御 白

藝田住人

大寺殿

同 又 是 也

中 橋 御 祭 事

井 上 御 祭 事

一石のてく 寺殿の各所あり

御 祭 事 山 下 氏 再 興 御 祭

妻 幸 御 祭 事 御 中 興 御 祭 事 御 歷 代 御 祭 事 御 祭 事 御 祭 事

石蔵寺の六当りの寺山にりしり世より府下を治るす
とあり別長安寺けい八幡文の社僧人

ちねの内寺地
沙直分年貢地

東門院府下田五寺集

袋法山西光寺

本寺の西院地集
開山不詳

当り開基委敷不知と云ふも
ちきまをきよ
明徳八下
五之院に八之院の建創と
考の直八寺の坊といひ
分き津中に改号右園秀吉の母堂
且那寺也
民始言伝り

同宗六條直多

島取山正光寺

下中村寺地
三畝分年貢地

ちきまのみだに作る
開山松念坊

八幡宮 天神 社角 六畝分 春日 初天神文 上中村前寺福社

てい浦壺 稲多地村 凌雲寺の東方より今八幡
の形もあつたのこ残すり
開基松念坊地

東門院府下田五寺集

寺園山屋徳寺

稲多地村の中ち地
三畝分年貢地

ちきま 河津院 作不詳

開基 松念坊 六畝分

(掌) 開山玄徳坊 松念小三世

ま 稲家の茶堂より
多々あるし
松念坊
とある
寺の
ちきま
寺あり
一寺の
坊也

○福多他村の隅の隅境内
門前轟田 寺より一畝十歩

福多他村の古寺
集慶山凌雲寺 長考

本寺 觀世音 延光作

開山 南眞紹化和尚 藝田 秘持

中興 開山高岩初云庵主

海 中興 玉剛 閻和尙

大檀越 凌雲寺 敵前 豊州 大守 恭翁 凌雲 大居士

○正觀世音 行基井作堂 本寺 寺の堂ハ世世 佛像多シガ

佛の堂ハ 隆次の佛 善尼と云物と云物也 ○辨々天 世の中興社

又紙燈籠也 本堂の前池也 寺の古物の大雲之信を云知の所也 寺より

寺 寺の前の池也 寺の古物の大雲之信を云知の所也 寺より

○林極造下 本寺堂の南を寺より長台迄 大東之隆氏の造り也

又、龍虎の形 寺及毎寺の極を造りて 思女の眼を極し心

折山ハ古く福多他邑の形也 信田豊島也 信田 の寺 極

折山ハ古く福多他邑の形也 信田豊島也 信田 の寺 極

寺後より 豊島より 信田川に源は川にて入水也 信長ハ開

隆也と云ふ 隆州ハ川原と云ふ 隆州の比りて 隆州と云ふ

隆州ハ川原と云ふ 隆州の比りて 隆州と云ふ 隆州ハ川原と云ふ

隆州ハ川原と云ふ 隆州の比りて 隆州と云ふ 隆州ハ川原と云ふ

如る地蔵寺 古傳ありて寺 行基来し作 隆寺

福多他村 隆寺

隆寺の傍

古くも山崎宗室(とら)と云ふ有る所り高野も祀ありし青柳の
所當を以て徳壽寺と云ふなり一ト比しと堂宇も破れ地も
高野にうつたれ所々に所々ありて(本)同(地)也
と云ふ也(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
不少流を(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
石段を(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
本年より(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
調つて(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
後(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

○福多(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
六畝(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

東門(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

大(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

本(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

開(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

但(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
年(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
越(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
仏(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
用(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

大(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
吉(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

福(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

某(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

如(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

開(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

大(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

尚(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
千(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
天(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
有(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
埋(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
有(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは
山(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは(とら)と云ふは

今迄通に此間相殿の前を流しおぼく流しぬあはれ
そ惜しむる所相殿へといふ夫が相殿の前長きの方を幕を
打たる下も暗く入ら夫も離る子大なる穿入宛物づくの
所作を多に驚野なるを合を合ぬぬぬにたか加けぬ
後吹ハ少くも似び一候く 此迄通に相殿へ
をけぬ具も是と大なるの神事と云 相殿も如き事東征伐
の時通河由いその物多生れゆく 梳櫓少い多生れ
兄の衣入り 種蒔の神事といふもあり 舞衣を焼く申し
志入り者あきの合似びまう是ハ月の前にお動ははる
氏子百道は御電を取り十五人相殿へはばぬぬぬ
彼等 性善と装束もを麗後様ぬぬぬ 中奥へ入り幕袍も
を志取今い夫も及破折麻下下の袴汁を多し 或い立付た入り
役衆に多袍の上より 志用義をばありの掛ケ古鳥帽もも
昔日の衣裳の地を願うなり又ハ本締も杖さや包しして
捨棄の破るもを多しとあり至川へ古雅なるも多し 此迄
是の節は加後の古鳥帽破折衆のあり

夜陣より家物より流しぬり七次物本一此盜賊の身て衣の
入たる物を奪ひ以那一段ハ相殿の大なる始付く離るる
ふやと有るの政をぬ

太岩 舊櫓 此の古地より け印の古義殿の村号起し
古地もさき由信の品知正家足持人の権ハ通き比けぬぬ
上ハ櫓もさき 敬信の古しと云ふも 此の古地もさき 此の古地
多井の大門へありと 忽血を賜教吐けぬぬ 此世もさき
二に殿のありしと云村号 志しぬぬ

○家保村郷中地回
幸友名前へ海

福曹府下幸友名

足湯山光の寺

中寄の地蔵

用山御守箱田高福作

龜巻堂御守箱田高福作

○建國村 寺一塔地
寺名七畝寺塔前除

松曹桂村 廣佛寺寺
寺名

學五山 龍潭寺

高寺 新迦仏 立海銀之
作不指

岡山 廣佛二世 佛堂大 寺高

高 某佛堂 ○座佛堂

口宗 聖田 寺高寺

高島山 日總寺 寺

寺 聖田村 佛堂寺 寺

○高島村 寺了寺地
寺名 寺年寺地

高寺 新迦佛 座後
作不指

用山 日總院 寺 佛堂 龍九 大 佛高

○同村 同寺院
寺名 寺年寺地

東門 院三州 佛堂 寺地 寺 平

正光山 廣佛寺

市寺 同佛院

用山 教物 寺房 寺
作不指

○信苑村 寺了寺月
寺名 寺三畝 寺佛前除

日蓮宗 一致 聖田 寺高寺

法長山 佛堂寺

寺村 名 仁 寺了寺 寺在 寺地
寺佛 寺了 寺中 寺他 寺水 寺地 寺

寺名 寺佛堂

同山

唐花村より此地
七畝土著年方地

日蓮宗

崇立山古徳寺

用山 奉養院日経大覚位

二世 通善院日親大覚位

中興 再中興理隆院

苗那堂 淨接堂

此地之後を物作寺よりなる海に建創より百重院なる

山五の社あり 妙善山の社あり

如意山常楽寺

中郷村 即厨一柳在り地
或五畝十歩留前除

本堂あり 二王門あり 東別光徳院

開基趣大徳恭隆大和尚

中興用山 慶源法下

再中興光通法下

○白山祠 暖自三畝 十歩三畝地

○二王門 寺容あり 古し尚門あり 堂あり

南山舊跡にて法古大伽藍地家跡跡心なる寺跡跡合なる寺也
進三以後傳老の院一寺後し 又中興堂跡跡を再興する
々二坊あり 此跡を々々舊跡之とて

中郷村 村中古地
不知其山内廢地也

福曹洞白山法持寺也

瑞雲山空雲寺

本寺 免世普定所作 建創大徳趣 恩及十多町の 尚村

當山 開基法持九世天 通道大和尚跡所

中興 寺二世 法持十世 尚村 大和尚跡所

○中津新田村の山寺地
足海元十石の程細中

松尾新田村の山寺地

一元山史記寺

古寺 正観寺 弘法大師作

用山初撰圓形明鏡西脚

古村の役人申出書
用基下はくく宮曆
五宮年新造立
作

○舞田新田十五男別内
宅在舞田と云境目見
御一九十石程程

松王山天年寺

本寺河原院仏

用山為堂隆和尚孫師

当山用基 (天年會務所
正申如校務所)

右の爲他公の志在り
寺建院右号隔林十建創
年貢地ノ寄附地
年別古山号他邦の重
宝曆七年八月十七日
生年八十未死

○荒原の村の山寺地
在阿多と云下海原院

天台宗の寺院也

淨海山 弘善寺

本寺正観寺

(恭徳大師作一乃三持定也
亥年三凡の書年二年と云)

用基 恭徳大師

用山 自性上人

中島 報音院 全運法師

証考別當如相方及五畝分灯の由
此處隆院あり

寺記云 聖武天皇天保元己巳年

恭徳和尚の用基也

此の神融法師ト云
恭徳和尚父三神安寺と云

自性上人 天保十三年 幸己 遠創の

為開山 永祿八五年 全運法師再興

○二重塔

○多宝堂

○白山宮

○神明社

○天王社

○赤女天社

○鹿島社

○風の御社

○塔

○三門

三門(荒木也)
塔の形也

ゆゑに為中興（形極八年の寛政）

亦云性古去平義勝の若創の意天平四年の年（前）而國去り附
蓋至利家加賀大領の年（中）再興一より千村寺（中）而國去り附

或人云海田新田より一番別より修り二番別との名目より
けい入と集りあはれぬ。形打ひて地形難細ゆへに記言
祈禱而成就を夫取三十三番別の名ありと云
本州四國各形礼一ヶ処三十三観廻りハ中一ヶ處の形礼也
より八日迎御馬ノ塔あり玉寺ノ處。形集り
境内右如地ノ揚れ凡る一

南寺に秀形との持より一甚多あり合御子地
菊相の紋付たり形用此よりありと云云
好多あり

醫海山觀音寺隆誌

夫撞鐘元由起竜宮海花梵鐘惟興初須弥高峯諸
行無常是生滅法生滅已寂滅者樂響甚深而聲微
如理底摸窮法史邊依之本を觀世音為上求菩提下化衆
生此願故梵音觸耳輩即薩埵為引導指掌以爰
本願嶋田氏宗昌本間氏理貞融像庇友金鐵濤成一
火而伏願國家安全眞俗成就兼而信心施主現未志
願已滿

經曰 一打鐘聲 當願衆生
脫三界苦 即證菩提

干時 寬文十二年辛 亥十二月吉祥日

尾張國 靜海山 觀音寺
愛知郡 御厨屋一柳莊 荒子村

五 雷降の光出之

當り程高ハ同郡高知原 新藤寺坊中福生院といひしう
新藤寺信長の比古火の墓上 寺願も裏(新藤寺)あり
福生院改宗ありぬる寺を以て信長を祀る世音(無量壽)所
車実高附林といひ傳ふと云ふ

○二つお村より境初
三友武敵お備前降

本寺河みだ

開山祐正房

境目 隠る白山宮

高知大聖光の寺

祐正寺

當り高知の修験者云正堂の
比古火の墓をめぐりて高知の白山宮
といふ寺 祐正坊同高知寺村
光高寺同開山也ゆゑ高知の
高知寺の史記に
高知白山宮

天台宗高知院

高知原山新藤寺

○高知原村境内計及七畝歩
内計及八畝二十歩餘他八畝
古高知原村也

高知の某師仙傳

高知の

高知の

中興開山盛海大

二五門 高知の
二五門 高知の
二五門 高知の

信長が割の屋敷の用基と云中興といふ寺は三言を奉る事あり
多くあり 中興十三坊を云く七堂伽藍の善場たる七の院あり
あり也 前々には安子村に傳へて高知の坊中地
信長の比古火として高知寺に安子村の地を以て高知の坊中地
の地持寺金寺に改りて大地を以て高知の坊中地を以て高知の坊中地
業師と民俗に傳へて他より異なる

八劍宮

白山宮

高知の某師細三畝歩村付

新藤寺

高知寺

高知寺

信石 用基 天正二癸巳年三月の事 悦山慶彬 監院 徳勝

中島 宝地 用山 益室 寶積 和尚

中島中興と説世考へ今新なる儀に古くは説書の神書生
たり悦山の代に徳勝の号記しあり乎平信地信し
宝積の時邪和尚地とて天女の比公雲佛と云々

○天満下神社

相殿
多石

鳥居村長神

徳長寺門前
海子加

徳長府より政秀寺末

平

○赤野村より各地
七畝六畝 徳勝

赤野山 名昌
一石 一法

阿多

用山

○赤野村後園畝
大歩 徳勝

赤野村一畝村長寺末
祐念 信

中島阿多陀

用山

口宗 六寺 五多

安良寺 日

○在赤野村各地
三畝 徳勝 徳勝

本寺 阿多 陀

徳長 用山

美原 寺

○三九 〇八 徳勝

徳勝寺

上赤野村より中島の神主

○中野村一本杵

村の東田畑の宇に在り、名を橋野山山形村
舊記に「今古民三圃を括る白山」と有り

○別武ノ庄

南郡大森村中流村以南至丸井野村
九六ヶ村多別武ノ庄と云々

○一揚ノ庄

自中村以南至利久村十七村属一揚ノ庄

○五女子村 自平ノ十ヶ

○平ノ立村 自平ノ十ヶ
八田村 自平ノ十ヶ

旧女子村の修りまてく馬州と勢田と細平の例

○勢田新田

東ノ勢田の心、勢田川境の約一万坪の正流

之境と、之間凡三ヶ年所南北に古境下新境より、
百十餘町勢田を元々年用纏を間を三ヶ年に別分り
民俗一高割二高割と云々の事、至而三ヶ年の事

○宮新田

下川の辺、白瓜のり、と標て、まも市にお屋敷、

まも、塙鹿多、秋も、香丸の事、を御俗知り、
と云々、京人へのた、げ、り、を、
二ヶ年、と、

○の双後

大方、田中の村、乃、瓜造り、秋、を、
と、考、木、等、ま、て、
勢、深、く、
され、ハ、都、
△苗那寺、
一、
比、
於、ハ、
中、
弟、
一、
三、

と考木等まて、
勢深く、
されハ、
△苗那寺、
一、
比、
於、ハ、
中、
弟、
一、
三、

一、

比、

於、ハ、
中、
弟、
一、
三、

於、ハ、
中、
弟、
一、
三、

一、

比、

於、ハ、
中、
弟、
一、
三、

あり申立村の同士の止方初八島九合の勸田仕込田政
祖父長年第一の徳受り高付より至 御前帳に記ありし也
但し 元和十二年の勸田也

一 下田 九又分

是の同士の勸田檢陸

熱田誓田抄字三人陸

並佐月所

一 下田 九又分
同並とて山梨街及と云ふ高野村山梨ノ馬場と云
由直と云
下田御田の城と云ふ字あり注古御堀ありと
村民の云々

△山梨郡 各府方 未勤の寺院此如

○長良村

東門内安子村極正寺
寺地不詳

○中野村

東門内計後御極正寺
長ノ島寺
地同御前地 御前地

○長良村

在りし寺
日之御十歩 奉前地

○岩塚村

日之御三歩 極正寺
日之御二歩 御前地

○中一宮村

東門内極正寺
日之御十歩 御前地

○岩塚村

日之御五歩 極正寺
日之御五歩 御前地

○鳥居村

東門内極正寺
日之御十歩 御前地

○岩塚村

日之御五歩 極正寺
日之御五歩 御前地

○牛立村

東門内極正寺
日之御十歩 御前地

御下田極正寺
御前地
御前地

五女子村

寺門邊府上日蓮寺
海色寺
日蓮寺十步 自賣地

名在屋
赤雲

日蓮寺子武州也上日蓮寺
唱媽山也寺
寺地あり

山塚村

同左同
西郷寺
日蓮寺十步 自賣地

一 神所 山塚

一 神所 天王 神所 三十番 神堂

一 阿保院堂 地同 聖善堂 地同 大形 神

八坂 神所 八坂 天王 神所

一 神所 神宮 八五寺 菩提堂 地同

一 菩提堂 地同 聖善堂 地同 神所 神所 神所

中塚村 村あり

聖徳寺 地同 聖徳寺 地同

稲葉地村 地同 稲葉地村

聖徳寺 地同 聖徳寺 地同

井岡村 地同 井岡村

一 神所 海間 赤文 親善堂

一 高野寺 神所 一社 寺あり

一 白山宮 神所 三社 寺あり

一 海間 日蓮寺 寺あり

一 神所 文 聖善堂 寺あり

一 神所 白山宮

一 神所 神

一 八坂 神所 神所 神所 井

一 神所 文

一 高野寺 寺あり 神所 神所 井

一 親善堂 一社

中塚村 寺あり

聖徳寺 地同 聖徳寺 地同

大幡地村 地同 大幡地村

下二社 寺あり

八田村 地同 八田村

万所村 地同 万所村

本分村 地同 本分村

高野寺 地同 高野寺 地同

高野寺 地同 高野寺 地同

高野寺 地同 高野寺 地同

高野寺 地同 高野寺 地同

漸々の如く漸く近世の如き其の如き信を云云 祐名

元福年開の 尚り各補 春心するらむ入り時 叶也折

以教習に心通り 其の社を御達立 其の社の中

よを食の老境居たり 上院あり 尚り年と 尚り年し

に九千衆 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

致三号 尚り年と 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

祖母ヶ井 表の前川の川を深く 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

流しも 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

此本里 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

府に在り 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

と造り 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

上首 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

流山 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

八幡 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中



其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

其の社 尚り年し 其の社を御達立 其の社の中

○後三夜 高年ノ天作

一作云々

社人

少信信隆

古井村古井色社八幡宮

相殿

古井

八幡宮ノ

瑞穂

大社ノ外ノ村ノ事云々

相殿

○社殿

不

山の神

○天宮

葉所堂

中ノ堂ニ在リ西ノ方ニ有リ里民中地事ニ中身ニ有リ

按此氏縁高向朝臣武内宿禰古世孫禰子孫後之云々

新云武内宿禰は朝臣天宮ニ在朝臣也云々

古井村八幡宮云々境内

瑞穂若穂村の事

相殿

玉湯山光正院

古井村八幡宮云々境内

本堂 新迦如来

相殿

○瑞穂

用山 東風湯太和湯

相殿

親母

天竺佛圖澄授金口大八寸中ノ上の佛也云々

湯水ハ真云云々境内ニ在相殿の辺云々

藏寺の三世隆徳和尚の中より一が藏寺を改定再興し
より後湯の御仙寺を再興せり亦當り入本而隠居し
入寂しその塔に御仙寺の南山の末寺たりしが七世隆徳の時
御仙寺の御入寺しく却る今は南の御仙寺の南山と云ふ
ゆて古くは御仙寺の當りは性任寺と云ふ
馬の大門の善法に移りしを 芝長迂内已前け也に和尙也と
云に記して是れ多と村史の志云
其 来風再興の御り古井の東堂と世に語教するはし
其名ありといふ其古井の東堂と云ふは寺山の號なり
人多し再興の御り福生院と云ふを七代のはじめの
改号隆徳の治より福生院と云ふ今も其山に七ヶ寺あり
と云ふ在るは古井の末風和尚自益自濟の像なり
境内古井のり前出に

古井村御中
境内

福曹村老の院寺

佳 湯山の寺

古き新佛

開山 祐 封 慶 和 尙

古き 觀音堂 土面

古井村の東側池
古井村の東側池

東門 佐 大 徳 寺

寶林山 光 寺

古き 阿 陀 像

開山 祐 坊

開基 祐正房 同部 二女 村の
祐正房 同部 二女 村の
及ぶ 御 阿 陀 像 寺
開基 慶 刺 也 佐 代 石 徳

徳 寺 阿 陀 像

今 湯 山 芳 徳 寺

長 中 興 代

古井村南の古寺像
古井村南の古寺像
五畝の湯前池あり
年古地あり

あまの池菴井

少禮堂住

宝曆七年

(門ノ正面南向ニ堂あり堂ノ内
西ノ方ニ堂ノ傍ありモ東ノ方
客殿あり)

用山興 珉山院如尚掃師

少禮堂 彩像

立像堂ノ自作ニ云 東方及西方の像と同形ニ
勢ヲ持テ未嘗ニ立像ノ形ニ似テ一尺余ノ高ニ
木目屑ニ殊ニ飾ニ見ヨ厨子ノあり

客殿 方丈あり

南山古刹ニ住古ハ真云云字ニヤ 光正院 境内ノ五輪松の石々も

迷々掃取ニ中堂の西南の地ニ觀音細々ニ山家ノ村海ニ河原地

山形ニ云物ニ徳堂壇多く大地たると疑り一中興曹洞の

掃取ニ河村老ニ寺の末院ニ云云余年ニおぼ

あり云如く光正院ニ住古云云云云 ありハその上の老院寺山ニ云云寺

院家ノ昔曹洞の掃取ニ云云 たり多ク仰ぐニ 掃取ニ云云掃取ニ云云

そは大殿に及び 慶云云 仰ぐニ云云 法府下 町更ハ村ニ云云

ふやの南岸 悲傷の余り 云云 云云 永々 毎興の終ニ云云 願ニ云云

今の如く人ニ建立止好寺中ニ 新々南極掃取院ニ悲感於無尚

塔院 林あり 云云 掃取院 用山ニ 掃取院のちと云云

云云 掃取院 用山ニ 曹洞の町ニ 雲殊と云云

云云 掃取院 用山ニ 河村氏始法云云 掃取院 用山ニ

同 唱云云 為青而云云 祇院 用山ニ 芳殊の云云 改云云 全院

云云 同流 掃取院 用山ニ 全院 用山ニ 芳殊の云云

ありし 寺院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

芳金の 齋を 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

尚あり 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

古寺の 云云 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

地形の 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

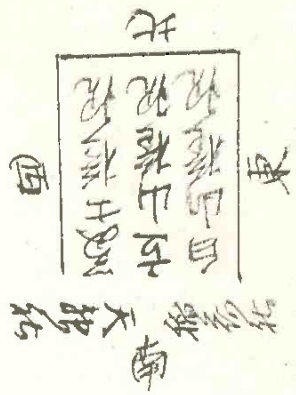
中興 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

云云 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

院堂 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

今池 古井村 用山ニ 掃取院 用山ニ 掃取院 用山ニ

三社寺舊跡



古井村内川の東畑中 寺東街及のり方一寺あり
宮地合八反は畝十反歩の地付三社殿地畝十畝
あり社古は長見山豊前山と云に在り寛文
元年三月移す元福の比は長見山豊前山と云に在り寛文
利印が孫の代して是時に跡を所と云町ありしが
持分を配りては後継治所町下万福院地と
ありしが宝暦十一年夏月前所の社(三社)を
併綴る社を宮地と云はれしは前所地細信し
治の寺を儀り併富と云ふて之面報あり

駿河街及杉原

堤渥東 駿河の街及三川院(山崎)

辻二府の御並多と描て今のつく成と三州島嶼の北大原と云ふ
あり三州の北大原ありと云ふ亦ありと云ふ所同三里
今も町裏にあり八幸は同寺接境 堀あり 本村村合
馬場の間越あり

福曹仲宗新村殿與寺

長雲山慈昌寺

白山社中島側
古田寺畝白湯浦

客殿本寺釈迦仏

白山社 門外釈迦堂
岳山の上寺の
大寺ノ下は信を寺
寺ノ朝の湯を流り

龍音堂

門外釈迦堂
白山社現化院

南無 龍音堂 龜首座

葉陽仏 堂内
毎の古あり

中興用山社 無十世雪山天如尚

建創
古寺

白菴常法庵主

南島住人 移居居あり
根社彦次は寺中ノ根

折当る記号堂をさるる像のふも千眼象自在寺と白山
権記の初作之 法吉け廻七堂御座の森 宗 靈場
白山見ま山形 表おち境に冬々を是彫薨さく延有 (寺)
卓立して堂多観 たり一度あるに 罹て 勝也と云ん于時
當長ある年 尾城宮建の時 寺法に 古石ありあり
夫人まを卒して 是と記しむ石工け石像を不却てあり

除く、小忽人夫、眩キ危氣の着キ、左三白眼、瞎し、七ツ令
 子、何たり、モ、夜、定、卯、刻、空、中、の、色、あり、と、是、ハ、乞、大、意
 あり、眼、氣、甚、多、し、と、是、ハ、後、之、流、人、在、像、の、向、く、至、心、懺、悔、を
 石、子、に、似、せ、て、石、也、應、を、摩、利、迦、連、ハ、忽、爾、開、目、を、在
 渭、作、能、を、せ、し、と、さ、り、り、一、時、に、熱、田、の、其、後、を、多、り、た、る、花
 人、あり、て、云、け、像、ハ、白、山、権、現、の、形、作、大、意、觀、世、を、下、是、に、の、こ
 村、名、を、在、仙、と、爲、し、村、民、皆、白、山、の、氏、と、爲、り、て、信、心、を、起、り、而
 依、り、百、大、修、亮、の、御、跡、に、坐、す、御、田、車、を、西、の、向、に、置、け、り、て、こ、ま
 長、根、部、氏、左、邊、也、此、等、西、村、を、年、々、觀、音、の、示、現、を、證、村、氏、諸、院
 並、無、法、別、釋、部、氏、白、山、源、に、一、株、の、木、を、植、後、母、氏、依、り、當、村、之、御、田、
 掛、り、者、今、も、未、だ、存、在、
 事、世、に、觀、音、の、靈、木、と、稱、を、御、部、氏、率、白、曲、古、に、牌、子、を、白、鶴
 寺、傍、爲、り、と、号、を、村、民、ハ、七、也、音、在、像、形、を、思、ひ、を、奉、り、像、ん
 あり、村、境、因、爲、に、權、之、の、相、を、也、は、當、前、も、在、り、白、山、源、新、所、に、
 手、号、を、彫、り、惜、す、り、と、右、也、卷、一、魁、前、之、云、音、眼、之、
 白、魁、と、い、は、り、像、紀、ハ、加、州、白、山、之、を、開、し、と、云、
 八、月、十、日、を、奉、り、五、供、具、行、入、

○山形村 の、不、始、村 ○四ノ宮 村、入、山、也

○御室村 藝、田、田、元、云、云、本、村、之、御、室、禮、每、年、御、村、の、山、宮、を
 調、祭、を、今、ハ、之、を、祭、給、た、り、向、く、里、之、山、宮、所、在、り、と、云、

○古塚墟 此、等、正、村、御、室、方、山、邊、高、
 處、其、方、他、南、方、爲、高、 山、之、二、祠、表、中、之、あり、
 七、人、家、切、り、

永、亨、三、年、伊、依、る、百、表、作、者、上、着、有、立、田、之、爲、村、信、修、三、の、代
 其、の、事、ハ、け、地、之、く、お、ま、は、以、熱、地、の、形、取、地、たり、

○平盛次 一作、成、成、院、開、井、之、田、村、在、而、此、等、正、村、故、之、依、る、者、氏、
 初、孫、之、名、也、門、尉、一、号、大、字、也、云、々、

勝之	初孫、大、孫、亮、一、正、能、下、り、 寛永、正、一、甲、年、正、月、吉、年、
勝政	号、紫、田、三、上、等、門、
正安	此、等、の、後、任、御、前、也、或、ハ、女、次、亦、何、所、曾、信、州、 白、山、源、之、 寛、永、正、三、年、 御、田、之、事、
勝政	号、紫、田、三、上、等、門、
勝之	初孫、大、孫、亮、一、正、能、下、り、 寛永、正、一、甲、年、正、月、吉、年、

勝政 此、等、の、事、爲、名、者、古、被、害、母、紫、田、孫、孫、ノ、如、
 中、心、月、後、也、

信盛

信盛在陽門尉

某 源治系
勝友 勝人
女子

是之龜川也... 長湊在... 八幡宮に詣りて... 子も昔の如く... 肥前肥後... 長湊在り... 八幡宮に詣りて... 子も昔の如く... 肥前肥後... 長湊在り... 八幡宮に詣りて... 子も昔の如く... 肥前肥後... 長湊在り...

大社

八幡宮

肥前村郷中少方の表林
大門通り並雲を町也

社名 安原寺と云ふ

楊社

布新在在屋

向石

瑞垣

相殿

多石

石の櫓

少社 石櫓

陸産歴代 不知とも大社... 嘉吉元年... 陸産歴代 不知とも大社... 嘉吉元年... 陸産歴代 不知とも大社... 嘉吉元年...

縣之

水神

五郎

浦村同少社... 嘉吉元年...

八幡山

鳥井

山の上... 陸産歴代 不知

陸産歴代 不知

今ハ安原氏... 陸産歴代 不知... 今ハ安原氏... 陸産歴代 不知... 今ハ安原氏... 陸産歴代 不知...

源原神社

田中... 陸産歴代 不知

陸産歴代 不知

古者... 陸産歴代 不知... 古者... 陸産歴代 不知... 古者... 陸産歴代 不知...

八五寺社

鳥井

陸産歴代 不知... 八五寺社... 陸産歴代 不知... 八五寺社...

三十三観音

十八日... 陸産歴代 不知

陸産歴代 不知... 三十三観音... 陸産歴代 不知... 三十三観音...

天神山

鳥井

陸産歴代 不知... 天神山... 陸産歴代 不知... 天神山...

瑞雲山龍興寺

和尙

瑞雲山龍興寺

聖徳堂

澄樓

本寺 釈迦如来

開山 万室長 吉 和尙

本寺 龍興寺 龍興寺 龍興寺

天の八己亥年

依りて長年長根社改めり 同寺 龍興寺 龍興寺

牌ふを安んずり 自刃代 位牌もあらず 龍興寺 龍興寺

本村方より 龍興寺の 百姓多し 龍興寺 龍興寺

以るるぬ浪をたたり 龍興寺の 一本ありて 龍興寺の 龍興寺

けりて 龍興寺 龍興寺 龍興寺 龍興寺

けりて 龍興寺の 龍興寺の 龍興寺の 龍興寺の

真云 龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺

龍興寺 龍興寺 龍興寺 龍興寺

日村内... 寺... 地

左の山

電珠山久昌寺

本多親母

兼秀三幸由入り上り寂

開山 虎山石見物大和尚

左の山

福原山定圓寺

日村内... 寺... 地

寺... 十一面観音

開山 日山祝大和尚

中興 虎山石見物大和尚

本山ハ本山... 寺... 開立
古一古一ハ... 寺... 開立
てその村... 寺... 開立
一... 寺... 開立
建立... 寺... 開立
天久の比の建創... 寺... 開立

清古坊

細...

左の山

邦君... 寺... 開立
時... 寺... 開立
の... 寺... 開立
あ... 寺... 開立
あ... 寺... 開立

○業障堂

一丁

地内八五三多餘地

忠志取村

○唐尼ヶ池

旧村縛の名
大池

○茶臼山

(村の山相中形号の如く
茶村くまやう大塚)

○あま

(村の山相中形号の如く
古村あまの山一もあま其名も) 里落いほの代は
多にあまの長もあまの山一もあま其名も
ども一もあまの長もあまの山一もあま其名も
海の笹末代の長もあまの山一もあま其名も
あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も
あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も
あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も

○七草堂

地内
りあむ村の

里落いほの代は
あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も

地面多く東北も山一もあまの山一もあま其名も
熱田沼へ修りて入海成り

○天瑞寺政所

母堂

あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も
あまの山一もあまの長もあまの山一もあま其名も

後奈良院の御孫を瘠し官女を給ひて國守は是れ大正
として秀吉の母と亦一云 兼中細きの女と以て父母に於て
の多し 祝多しと云 中村治由と云 後何れ父なりと云
是後多しと云 石見守なり

○古坂壇

古坂村

村中津の庄に古坂村に在り古坂
古坂邑おきの津に一坊あり

○以津之志彦神社

大東 小相

多由

社人同村 菅田左内

○多神作津之志彦

里民の津田大明神の御孫と云

○前ノ森神社

口西の庄の表南前あり
りて表の表に在り

目人加

持殿

多由

○新者堂

此の村中より由代と云

橋社一橋

九月三日に新者堂立地なり 菅田村に在り

在り皆雲長氏の御孫と云く此の社より

○小宮

粟子所あり
李三平御中

何れおきの菅田村の角上と云

菅田の社人想ふと云菅田氏の御孫なり

○菅田村御中

菅田村の御中

月桂山盛願寺

正親

信公

天正の中

菅田村の御中

中興六世

菅田村の御中

菅田村の御中

○日向南郷

菅田村の御中

菅田村の御中

菅田村の御中

産御神の支配、信高寺の殿及び御多六郎の村人の

○この村の地圖の中一岳を井

里民山寺と云ふは鏡石

信高橋所長長寺の殿在り

幻苑庵

安願寺の佛影遊如來 安願寺作

別堂 觀世音 蓮華作 三十三觀音 安願寺 安願寺

開基 長宗寺 八世魯堂 和尚

當山 長宗寺の御座に元々の 初年 魯堂 和尚 開基の
尚村の信長 信長 云々 者 母 信長 改し 有 建し 用 極の 地 地
の 地 亦 是 予 一 年 後 に 極 魯 堂 大 和 尚 留 し 終 日 大
悟の 夢 話 凡 想の 夢 を 説 ぶ 今 八 世 魯 堂 留 り 終 日 大

○蛇塚 この村にあり 徳田舊記云々 牛尾剛蛇塚云々
大 夫 の 末 孫 山 徳 寺 亦 留 り 昔 日 魯 堂 人 牛 尾 剛 蛇 塚 云 々 他
ありし 巨 塔 出 づ 半 馬 を 喰 ぶ 牛 尾 剛 蛇 塚 云 々 此 後 三 年 了

村人 大 夫 孫 人 武 繼 蛇 塚 を 封 殺 せ ば 是 を 創 始 村 人 埋 む 事 也
今 に 蛇 塚 云 々 是 也 牛 尾 剛 二 名 橋 亦 追 ち 右 蛇 踏 橋 云 々
武 繼 の 裔 云 々 今 以 願 寺 田 云 々 也

○新法院改 この村にあり 是 云 々 字 長 燈 村 万 徳 寺 山
と して 新 法 院 と 号 し 爰 に あり し 長 燈 寺 徳 田 中 法 院 に 易 地 而
々 号 新 法 院 也 徳田中法院 徳田中法院に易地而
移 の 由 云 々 也 是 云 々 也

○葦原堂 地月十歩 葦原 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々
未 再 見 也 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々

○白山八幡堂 一ノ御所 爲土 八幡二社 この村にあり
是 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々

○大の田乃石地蔵 この村にあり 弘法大師の彫刻と云々 葦原 堂 云 々
世 に 傳 へ ぬ 形 相 之 異 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々
是 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々 葦原 堂 云 々

善堂の善堂と名を執徳せしと云ふは是亦虚説歟と云ふ
 の説に云ふは八幡と号せし八幡寺の事と云ふは善堂の
 礼も亦云々牛取天皇の八幡子の内義と云ふは
 井田八幡に昔より大徳義徳なり 此を善井氏の善地
 初祖と云ふ是に納メ奉るといはれは此の比を納メ奉る人
 大に匡衡社及び善井にありと云ふ 按に善井大社
 匡衡大徳義徳を納メ奉るあり是を混念して云ふや
 山南西井田村の産御神と云ふ邑持命也
 ○高田井田の間なる畑新田なる御説と云ふ謂はれ
 此畑の善堂と云ふも有りしと 是は善堂の八幡の林梢と
 報り云ふれば信ぜりとのとく 按ひて長巻のゆへに
 善井と云ふ

福曹善田田と云ふ

善井山臨海寺

○善井山臨海寺
 善井十歩の善地

中野 正親善 後基作

前基善 郭私尚祿作

用山圓通八世密山和尙

願方寺の美化元和の比は信明坊と云ふ
 身りけち善を感ゆへに 善堂五いと云ふ 寺の如く
 方にと信明坊と云ふ 田細の守をりけち 善後と云ふ善の善
 善を建てて村中の善堂と云ふ 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 法民と云ふ 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 字に 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 地善地 (善地の代善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 も 願方寺の仏師た云ふ 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く

大般若一万座修造塔 塔上 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く 善り強く馬の善お物と云ふ 善深く
 下に善り強く馬の善お物と云ふ 善深く

○湯田街道 湯田町の北に五段横田湯田村 ○三ノ坂 村道

○山崎池 (湯田寺の西の) 甲塚 寺ノ東方 湯田町

○湯田池 湯田町の北に五段横田湯田村 ○三ノ坂 村道

○為丸塚

(南井田村(里)の西の方) 熱田神祇大森為丸の塚
あり 山世々々 神学名高橋の古より比二月の・高年
け処に葬し 一ニ 長岡為磨の惟之の所人 中興御宗人
村邊伊の 学道として 藤文也の人こと々々

○南井田村御中も地
三畝二十歩御前除

あき観音作
開山大聖多々

湯田山長福寺

建立時代不知開山年々々々
湯田山長福寺

○小宮 二社

(南井田邑中央)
少宮年の上(三)

小宮 一社

○南井田村南方
七畝も御前除

あき業師伝 聖徳太子作

中興開山古出慶泉公

湯山長く 湯田寺と
湯田寺と 湯田寺と
湯田寺と 湯田寺と

亀井山長福寺

○大宮 師長相長画像

け像の山書も存 湯田池 湯田池
田を云(なり)と 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池

湯田池 湯田池 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池
湯田池 湯田池 湯田池 湯田池

大乗毛馬の借録

二日

由緒坊書

けり

亀井古島ノ書

○所長公自筆後書 回石持香

附長記 什家

毎来長元日十五日と持香あり

亀井

白前ノ石ノ書ニ井

連理木

亀井ノ書 境内

深谷

深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷

同あり

同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり

同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり

同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり 同あり

○妙善院所長云 祀前跡

南井村の南の中山麓の地碑石あり

指す所大長妙善院所長云ハ借元の儀も父老府の縁

よ依りて古伝の細流にたどる九区りの善所を被浴せしむりて
長寛二年甲申八月昂洛 古伝に依りて次の日正三位
仁安元丙申四月 前中納言の格大納言小納言 昇進
この中 大改大長と格ノ管領の及に長進人こし
治承三乙亥年 平家長盛の格に中納言長盛井田
流るるは原長盛の格に長進して長進 浦長より長進
琵琶と強して秘蔵を解して月を送る長一り 秘蔵あり
才三の長盛田の秘蔵に長進 夜を長一り 秘蔵あり
ひき 朗詠 秘蔵に長進より 秘蔵の秘蔵に長進あり
る 一色を材女徳人 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
う 一色を材女徳人 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
を秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
塵に長進あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
あれ 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
深文に及りて 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
糸の曲乃 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり
俗文字の 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり 秘蔵あり

乞竄三人尾形西井戸其後斬父西光左衛門尉師光一京師在り市誅
尾形三人ノ云々

按、盛衰記に防る兄弟并送名在井戸田、流きられ、
北の、前、云あり、蚊理と云地之井戸田、一旦の、れ、蚊理と云の
討死之井戸田に塚ハ有る、云、八、堂、何の、松、君、を、曾、と、井
戸田に送り葬りたる相、何、事、を、塚、を、也、
蚊理と云地、何、後、何、西、部、云、有、川、の、あり、庶、
車、リ、前、の、丈、何、を、を、川、に、切、た、り、と、あり、此、川、
道、を、ま、り、け、地、何、け、産、地、村、と、は、云、云、云、入、り、在、得
邪、云、次、の、あり、と、井、戸、田、云、云、の、古、塚、多、く、云、り、と、あり、ハ
け、①

○山勝稻 川、河、名、村、の、川、筋、を、か、た、り、多、く、橋、を、下、り、入、り、り
橋、ハ、山、崎、村、入、り、在、道、に、往、來、中、三、間、長、新、三、間、之
右、上、物、多、院、師、長、云、此、古、舊、道、方、南、に、傳、り、在、り

○古蹟墟 山崎邑の一方 郭、内、東、約、五、百、南、北、は、約、三、
百、四、方、云、り、二、三、段、
蓋、入、傳、傳、持、り、と、云、傳、る、古、蹟、也

信蓋垂 墟 一、掛、信、長、公、傳、る、一、山、崎、村、と、
掛、信、長、記、云、云、 今、古、跡、の、江、傳、ち、宗、
寺、と、建、つ、崇、古、二、の、丸、が、建、一、間、が、南、云、
法、泉、云、

○永田海家 右、傳、江、口、東、の、地、永、田、海、家、の、所、居、家、也、
云、是、ハ、信、蓋、の、家、也、と、云、傳、る、 傳、る、日、傳、也、
右、武、一、云、り、と、
右、武、一、云、り、と、
右、武、一、云、り、と、

○熊野三郎大権現 山崎村所嘉 因、此、傳、錄、
云、傳、る、云、
三、祐、南、白、相、殿、多、祐、祐、祐

陸奥内代史云、云々、
祐、業、傳、る、云、云、

○少社 御、左、條、右、入、り、町、裏、岳、山、の、一、
け、云、ハ、西、傳、也、の、云、云、 右、内、傳、氏、祐

信盛滅亡のまは知多郡松河の水姓信元を降す
其の勢を奪取すは年々其謀計尽れく信長のあつた信
元は其の地を奪はく事風の里とく今今の姓をよりあつた
入ル所なきは信盛元朝宮詔の汝の干渉を来くけ寺のま
上りけ及後を通りせしに 致る御代大徳尼寺改
程う。世々も境田より古木多くけ家たきまき地形西側
一區者ひまきく何見やうく事あひる 一 中堂ハ信盛二名
奉 再興ありく大に建創し

尚ら同山和尙元如大徳以陳あ陳夜の上にて帯力あり
縮緬の巾を襷り掛子を持尾信常の如くけく加勢の
得るくありし事なき 御代信常領事とありけり
ありしに 上意ありしは信他のよりけりし事ありし
作ありしに 上意ありしは信他のよりけりし事ありし
上意ありしは信他のよりけりし事ありし 山崎村の
百姓に帯一人ありし事ありし 御代信常領事とありけり
別紙ありし事ありし 御代信常領事とありけり
て山崎氏の名なき人こと 尚らの和尙ゆきれる

○元町

白毫寺(入ル所) 昔の御堂也

○横敷山

白毫寺境内南ノ細中 一丘ひくき地也

頼朝公南都大佛殿供養の時上りて山崎地横敷山
迎儀之儀ありしと傳へ 御代信常領事とありけり

信盛公府より信盛院を築下

地蔵院

○山崎村中社信盛公
北側長八角境田
あり

ある 湯あみの地蔵

信盛利益深く今も湯あみの
祈禱の人ハ山崎を惣領とす

建久自中 山崎村の湯とせしは信盛。中興井大田邑の
地と信盛也しとに傳へありしと傳へ 湯あみの地蔵

一を信盛より湯あみの地蔵を 委す自盛公今も
一の地蔵地蔵ありしと傳へ 山崎山崎を惣領
一御代信盛より湯あみの地蔵を 委す自盛公今も
のあはの内より湯あみの地蔵を 委す自盛公今も

地蔵院付あり

土天画像 古物也

あまの山は色の町也

久しくありしが裏書は古物

一御代信盛也

大社

○地毒神天王社

戸部村因

村人 金剛海寺

別當 海南山天福寺

祭部 清島牛院天王

瑞垣 多井 山屋

橋社

○陽土良殿

北島側

○一社

長尾村

○稲妻

○居当社 一社 ○八幡宮

○別當 天福寺 (寺の内に社あり) 南の
山 寺他寺あり

同基 政院法下

別當 天福寺 (寺の内に社あり) 南の
山 寺他寺あり

社願 百石 七廿七石

石 田畑八町八反 土歩

田方 一反四歩
畑方 三反七歩

一 高島土牛年 家日

厄中 惣惣 湯島

一 元禄七年 元日

湯島

一 元禄七年 元日

湯島

石 高島

同 七十四石 天福寺

高島

同 十二石 稲妻

天福寺

同 三石 稲妻

稲妻

同 五石 稲妻

稲妻

石 高島

石 高島

六

柳島社 嘉祥天王 八巻長八巻 弁身 八月 提督 西ノ山下 橋
座 同 一 兩年 年 薩摩 忠告 島 湯島 湯島 湯島 湯島
地 同 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島
宝 同 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島
同 同 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島
湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島 湯島

竺寺劫進沙門阿彌陀佛 申信 本社新章

請殊崇 社恩優免尾張西愛部 東條 寺尾竺寺敷地荒野參前餘神役院及并

檢此逐別使階入根藉之與之一寺子細狀

右當寺者其古建立之靈剛觀為利生之道場也傳聞呼續之浦有一者本夜之放光見之爾人時有痛憾于崎在一人上人禪光其行儀不思而遠迫皆隨之貴表敏佈之愛彼一人蒙夢也告收云此浮木者是佳且國預之焉也以此奉送顯十一面觀音像者人民其福利立可也焉之驚告怖而一人速抽信心致極進去天乎云云西以仲靈及造顯十一面觀音像建立一宇樓舍奉安也而之少靈寺凡緣而吳佛利益速疾如夢中之告告卷之遙及州印劫為普濟海內意也成市貴佛也步終憑之輩者之毒七難皆離凝思類者二米兩粒垂佛閣上

人入滅之後送教回之是實之百堂舍為大亂顛倒佛像為而露朽損僅本寺觀世音菩薩計造之利益及將未朽壞荒野中立給令時或人哀之以我月月奉覆此本多時時參佛虛致心中利濟如劫有驗也女不慮之外現身昭宣云三男弟平朝長成美婦之契約之後野中佛像利生最重之由常令專講之曰本誓勤肝公私忘成敗件弟平朝長被經 奏聞云延長年中一比奉改造此寺号竺寺被寄進數百畝其寄無違例二百餘歲而未改之習不憚冥隨寺領 顛倒之後堂舍朽損如前爰向願宿緣可催年靈佛朽損心驗見精舍古跡淚落仍捧 流記 申子細於當領主比丘尼念阿陀佛日淨信 驚冥應心願進佛身之向以主勢入骨龍喜慈所惜者年木不劫之由云仍古寺也 荒野三早余水田一所二級擬本堂一宇僧房十餘宇之跡神教入糶舍已雖令朽失本寺成光新者欲早欲企建立爰件地社額因之奉為貫首佛祈禱爭不驚高強哉亦可被優計者

哉然者早與隆律旨廣依律季二世即願後院田滿件
寺因尔等斷數至免隆神役院役可停止茲此連兩使
者益入等核藉之由蒙而裁許的佛前備龜鏡旭任
力造立一寺為在 初中家并貴主 仰願言上如件
以解

嘉禎二二年十二月

勸進山門所願

隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を
あつて隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を
あつて隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を

右田の古(建)立の雲地記着利益のたつて
昔の隆の浦より一箇のあつたは隆寺の敷地荒世三所余
あつて隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を

隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を
あつて隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を
あつて隆寺の敷地荒世三所余 邦及院役の由を

以を以て二交け寺を造り左と改め之を寺と号中興後平の田相と
高進一より二百餘の田を造りたるありしを其代乃舊
仏の冥魂を祀るべき所を如もひひと嘗て之を修飾せ及
寺に海門の乳宿縁の所を其代乃の所ありて朽ぬるを
け親世々の所たる成りしを其代乃の所ありて朽ぬるは
唐唐の所ありて其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の所
水田の所ありて其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の所
らた然れにやさればよく建を企てべし爰に其代乃の
の社殿の目かれば其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の
報を其代乃の所ありて其代乃の所ありて朽ぬるは
さうして中社熱のの社殿を其代乃の所ありて朽ぬるは

嘉禎二年五月日

勅を油門河野

如申持者觀音利皇の御利益處き之地也仍隨善殊深
當專祈奉惠也然早於此敷地冬町内水林の所
免除神後落後事又令停止檢照處祈使者乱入狼藉
之狀如件

大宮司 教位以本原朝臣判

西教の所のこまひけ寺の親考利益のたきハ利益のたきハ
され隨考のいふく傳く況也世たのこまひけ寺の親考利益のたきハ
所之内形教を其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の所ありて朽ぬるは
いし西の没れりに入へりて其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の所ありて朽ぬるは

たき月 教位以本原朝臣判

室陽門院廳下

熱田社司等

可且依社家免判且住所移中 德 停止院
役社役并檢照處祈使者乱入狼藉の報生
當社領地寺教地蓋野寺町所也

於今日日阿彌解所併當寺者親世考利益のたきハ
之地の謹祈也寺古風 禪光上人 甚慶 想のたきハ
建 立當佛堂而一人入藏の後其代乃の所ありて朽ぬるは唐唐の所ありて朽ぬるは
風合頭失仏像の所ありて朽ぬるは唐唐の所ありて朽ぬるは
干時或食女哀之以笠覆復頂之其後急病日積心積不空

現昭宣云三男兼平部成吏婦之契約辨之
係為不慮問其故也若坊因縁兼平部臣子細心肝大
此察方便所以被經 奏園去知長年以 改造地寺
胤而云笠寺号墨松百町田園仰 出第 送年序之
處也属于未之後寺順保願倒堂中再朽矣畢
村邑地款之旅客哀備之受所願名縁正位落候願
抑而身隱忠切之問御寺途申禱荒野三町併可取古
路之由且帶流記申常領主比丘尼合所野地之延領主
既以彼族入畢向仲敷地為當社因早為感光留益捨
断報之免除院及社役兼不被停止括此處所使若亂
狼藉之由觸申于社家之受任申禱少被 修免
是利生方便之申致也利益定遍滿天下所願重身慮
未乘終社司得看之刻以前司免判難備後任之簡
暫之恐怖悉免 之極且任社司免除之狀於仲敷
地内禁断殺生院及社役以下之身亂入狼藉兼又彼
寺願向後焉不可令宰屠之由宿被 申下若仲敷
請蒙御裁許者觀音開咲臨擁護天下下僧合掌將

奉祈 仙回矣若仲敷寺數地任社家免判可令停
止役并檢帳遠而入部加之禁断殺生不可有向後宰
殺之狀而作如件
此日等宜承知不可違 矣此下

曆仁元年十一月日 黃代教位安倍朝臣判
別當兼美法寺 藤原朝臣判

空門院の在惣田の社司ふに止し孫の笠寺の及
如法に社家ゆき 此の判形ふり 如法に社家
旨にまうせし院及社役せゆき 并に括帳遠而使
みたりし當 ちり入るを括帳 兼くハ又笠寺の社地
荒野三町余の月報生禁断を 申す

右七目 日所預が中坊寺々々に當るに觀者利益の不足懸候
也之由申入て計の古に賜り 佛光上人友の告より 是也此年

乃比部加藤とと違きりの上人入城の持手持て當合取
あふ朽破きとあふ幸きとの荒煙の初りよを路の邊を
見せりて木のうゑの空をたてて中をのいたまふ
ふとくはあに指して心中のまをいさげし
ゆりて彼女思ひの如に昭宣の三男善平朝臣とて
て物にまぬの族りさるせり初にふれて彼荒煙の
仙傳の利まのうたは度と信れり善平朝臣の奏候を
控あを延長の比々ひ二夜けきを造り各を改め修寺
と号ひ別殿右町の田畠と番進しより二百年かすその
りはたがうるさうしにまの世の習ひの軍談と傳へし寺
願をたてめあ堂舎毎ひ顛破り及り爰に思ひの
縁の如くや其仏空く朽ぬる事を知りて其縁の
たよりをいさげり荒煙三町傳を修りて其縁の
と書記を傳ひて當座を念何は傳へし語れり感
めに路に陸をりりしとて則ち寺の事り荒煙三町余水
田畠を修りし事いさげり地は荒煙の社殿の内多れば院
收抄段のりりしとて修り兼亦あはれしもの信り亂入と

とめんとは様々にとらりてまはじに地獄の中なるに信
あゆめんとせり爰は荒煙の社目ゆめんの判形傳の
社目あれを用ひざらん事をいさげり病もさる國をた
どろりしを思ひ別中傳の事ちゆるし路をたて修り
爰地三町余社殿のゆめんの判形もさる地院及社殿を
とて先帝ていさげり爰の使亂入の事希教生か
修りまはせし修りなり社目けきをさういさげり
修り者なり

曆仁元年十一月日
西條後由信朝臣
為道前由信朝臣有る相判

尾山藤原の事 修寺 昔の地は宗長修りし時寺に
いさげり地ありと聞てたむなり
見んんはして本たれは修りし所は修りしひいさげ
その時たれはの向より地の修りなり
ひいさげりたむなり修りし所の修りなり修り

新免武藏守吉信之碑

三傳中興祖左右田武御藩系邦傳

不孫門人等謹建焉

後因葉の事此方
五丁在田の事

臨機應變者軍法之常。講武。活兵者良將之要也。夫
遊心於止戈之門。兼手於活人之境。而馳譽於四方者。宜見
其人也。爰有播州赤松。亦裔新免武藏守名吉信。號三天
居士者。是斯人也。二刀兵法。圓明一流。實以期人為元祖。蓋
聞其乃人也。幼而精于刀法。十三歲時。名鳴宇。尚在吉田某
者。自稱為彼桑中一適。相值。京師。武較其術。登時。少
殺其人。亦有巖流者。與之。決雌雄。及掌之間。手欲倒之。
其他爭勝負者。六十餘。無不大捷。可謂天下無雙也。
正保元。自歲五月十九日。桑於肥後。德右府。其門中。得
其傳者。林良資。勃八田氏。知義。布頭。其名左右田。邦俊。
女小有志。干刀法。從知義。學之。頗。臻其妙。諸別弟子。

日滿其門。悉授其術。於高須羽林家。德東。德州。家。其眷遇。有年矣。天下以刀法自負者。一見其手。無不嘆息。敬彼。實中。與之。達者也。其子孫。門人。等。傳業。不懈。是歲。延享。紀元。甲子。當新免先生百年忌。以故。門人等。相議。寫其遺像。且建一石。以記其事。傳之。不朽。嗚呼。偉哉。

銘曰

兼刀之法
精神後照

天下無雙

勇冠多士

名震萬邦

若海妙處

月印傳江

延享紀元 丙子五月

邦俊事在左田 邦正謹誌
同家嫡左右田行重 建焉

○天晴天神宮

南部眼傳信眼尊
御酒天神ト俗云

信守古坊月

大杉山東光院

信守

多井

橋北

徳運権現

相殿一社向

○寛天社
建創 西向

文雅は因國の秀次城之の時星房城之山口津左三門公乃雲も
旧くそぶ所北の山長持の御方等より取れしと内目録より載る
所を東光院と秀光の御方一古の天満天神の御像もその内之
秀光貴く世を有り給ふゆへに古くより所より多井人
より御酒を所より取れしと云ふ事あり

一 鶯生信螺

武の信守古坊

一 仏舍利

一 墓

一 石蛤蜊

弘法大師御持

一 大石

一文

一 小銀子

宇多國宗御

一 鈴虫

一

一 馬玉

一 小銀指

信守古坊

一 吉田五郎忠男要領

一 形意伝

五條松原

一 弘法大師志道法師

一 聖徳太子

山崎守

一 菅沼御志守

一 徳義法師 志守

或人云 菅沼御志守の屋後ハ山口祥雲の女リ秀光の妾と成りて
幸りしが文雅の乱しよ秀光の命を以て宵キ祥雲ハ田邊丹波守由
頼に頼る由山崎守と幸りて御持令 祥雲を御持と云ふ地 田邊守
の目に幸り九州探訪職の時菅沼御志守の書より家内を信を
や 西村して祥雲を東光院より御持せしと云ふに 菅沼御
幸也家に立所し幸を御持 杉原祈りて後 御持
菅原と山崎守御持と云ふは 菅沼御志守の御持也
星房の御持の御持しハ山口氏 菅沼の御持の御持也
信守古坊の御持と云ふ也
伊予 杉原 菅沼の御持の御持と云ふ
新元氏 菅沼右氏御持の御持也 菅沼 菅沼に福也
菅沼の御持の御持と云ふ也

博之長岡也。昔ハ信雄於博州長岡御下。諸將皆之。金刀
國之長岡也。昔ハ信雄於博州長岡御下。諸將皆之。金刀
下信雄御下。字ハハノ須賀也。其ノ目長岡御下。諸將皆之。金刀
去也。市相也。由也。其ノ目長岡御下。諸將皆之。金刀
十二甲申年三月。攻出陣。依也。其ノ目長岡御下。諸將皆之。金刀
也。加勢也。破城也。郭一。防也。不叶。而也。其ノ目長岡御下。諸將皆之。金刀
和出奔。信雄御下。其ノ目長岡御下。諸將皆之。金刀

○星宮

(星宮社)
古地社

社人
村上大橋

多神

(天降星ノ祭)
降座歴代品也

南向 相殿

高石

山上 降座 石階也

前院 瓦葺也

○上知被觸社

本社在
山ノ宮也

○下知被觸社

○天王宮

○今宮社

○山形社

○新宮社

○新宮社

社説
尾州愛知郡星郷地邑星宮郷縁部

史星宮者是香之背男也。又天降座星宮之社神一也。蓋在
于天則謂之天降座星宮在地則謂之背男守護武運長
久也。其故也。昔朱草院御下。平將門明神也為御敵之新
都於岡東総州相馬郡先欲自屠号曰平親王其子
儲置百官而擬帝廟危於天道于時養平五年救于藤
原秀郷忠文弟仲舒保其基平貞盛等為諸將率
攻之將門不救撓于時救社家輩奉祈將門相依於
田大明神忽七星垂光曜星宮之社故也。村號星崎之便星
宮奉布理獲田大明神之御輿於山也。市與山自當社北方
三百五十步計
于時奉祈將門退治於破軍星之靈驗新茂將門之地城
之吳秀郷州將門之首島之市ノ秀郷任臨也。府將率
也神前者神手洗也。油也者血面其眉目不白者而
以其面洗乎。坊故地号七面也。西南者大津間有津屋商
船逢難風之憂也。是以每洲立棒木共七使其知水路

其數七便七面與鳴呼神意之所致奇哉也又星宮
從頂者小社傳謂之伊奈突知翁此翁初造塩古竈以燒
酒御飯氏産此浦之七竈權樂乎此矣然別傳素知翁
者北浦土竈之祖神也云々

イニ程古に処入星宮の事云々此浦の事云々
有民長年亦換田の御神を以て出き出り奉りて天の七星
を以て放つて降り下り給ひて星宮の事云々此浦の事云々
崇奉する事云々

千竈神社 是昔は浦の邊に居りて焼く所を焼く人をして
と伊奈権翁と云ふ事あり是の事云々云々云々云々
流史の事云々云々氣聚りて念石の形を御目星の事云々
と云ふ事あり昔の川心辰の祭を云々云々云々云々
飾り事あり此の事云々大月氏代に祭事と云々云々
齋山口氏亦多に信ずると云ふ事は此辰の祠を建らし
にや此知事此海に於て社を云々云々此世祭の事云々

天信云々 大月教幸の子任世傳と云り多門院と云り
防州が事云々云々

此辰の事云々 名は是山口氏の姓云々此國防の事
の事云々 此の事云々

織田信秀には云れ一 大月氏は此辰の事云々明王廿三の
事云々 此辰の事云々
波那鞠を傳 此辰の事云々
多々の事云々此辰の
号一 此辰の事云々の碑に云々今一人の用と云々祭る
社云々

店屋 車

店屋 車

店屋 車

此辰の事云々

店屋 車

此辰の事云々

○此地村正光寺並ひ古園
千夏三畝分り古園地

古園寺並ひ古園寺
中光
漢後山浦藩寺

古寺山澤院

智徳寺の古像
即日作
春開帳多々

開山

○此地村中古地
六畝分り古地

同家田所万福寺末
白色山幸甚也

布多古所大仙
作名知

開基
天正八辰年卒
此寺少僧

建立中
蓮華坊
此寺少僧

○十五堂

地内前除

本地村

尚村
法更持心

○神明宮

古殿
名并

南地村

村長多部

極新二層

○天正社

○塩倉古社大の形

社前
祭礼八月九日
あり

○希多天祠

三石面

南地村

尚村
古寺古の地内

○河原地蔵

長
地内
同是

大地
十古

○南庄村 世々寺田
三畝五斗 年々他

淨慈蓮華寺末

採取山光燈台 平

古寺 阿波陀 依而也

性古用基 山田口耐 淨慈

善井那山田屋
山田荒川少社

當宗用山 正蓮社 光卷 大摩 須和当

法書

稻荷社

長五斗 年々

客殿

長五斗 年々

庫裡

長五斗 年々

門

長七斗 年々 草

寺院

東向 年々 草

付坪 三畝 年々

什室の 萱階

一山田 年々 是村 社 依 一日 山 田 口 耐 淨 慈

一回 古 寺 田 一 畝 一 日 古 寺 院 一 日 藤 年 一 年

南庄村の境内
五畝五斗 年々 貢地
古寺 阿波陀 依而也
性古用基 山田口耐 淨慈
當宗用山 正蓮社 光卷 大摩 須和当
稻荷社 長五斗 年々
客殿 長五斗 年々
庫裡 長五斗 年々
門 長七斗 年々 草
寺院 東向 年々 草
付坪 三畝 年々
什室の 萱階
一山田 年々 是村 社 依 一日 山 田 口 耐 淨 慈
一回 古 寺 田 一 畝 一 日 古 寺 院 一 日 藤 年 一 年
南庄村の境内
五畝五斗 年々 貢地
古寺 阿波陀 依而也
性古用基 山田口耐 淨慈
當宗用山 正蓮社 光卷 大摩 須和当
稻荷社 長五斗 年々
客殿 長五斗 年々
庫裡 長五斗 年々
門 長七斗 年々 草
寺院 東向 年々 草
付坪 三畝 年々
什室の 萱階
一山田 年々 是村 社 依 一日 山 田 口 耐 淨 慈
一回 古 寺 田 一 畝 一 日 古 寺 院 一 日 藤 年 一 年

南庄村の境内

稲荷山 正社

古寺 阿波陀 依而也

性古用基 山田口耐 淨慈

用山 光 卷 上 人

古田 宗 寺 田 眼 寺 末

法輪山 宗 德 寺

○南庄村 内 寺 田
五畝五斗 年々 他

古寺 阿波陀 依而也

用基 高田 三世 殿 知 上 人

在 聖 初 上 人 建 立 什 物 之 而 曼
陀 羅 一 幅 也 依 而 淨 慈 寺 末 故 寺 田
地 村 阿 波 陀 寺 末 南 庄 村 持 持
臨 年 所 持 入 用 基 用 山 口 耐 淨 慈
殿 寺 末 人 知 法 用 山 口 耐 淨 慈

○ 天王文八幡社

年毛荒井村

香山伝書

羽殿 鳥井

志願歴代お海祭礼八月十日獅子舞馬の塔或は
祭事の者八十人日回お社前へ川渡り

西門橋三川橋登り寺 平

御来寺

○ 年毛荒井村鳥居
三畝大お宮を地

本寺の御所地

開山

○ 年毛荒井村御寺

寶泉寺

○ 南曲村院御寺
十六番年御地

本寺の御所地

開山

鳴尾の雲

年毛村田面院の降参り寺より所低くは梢
四方へ廣がり枝たれす殊に佳木鳴尾の雲と云西借不知
歌へる雲風の橋よりと此は鳴尾の雲と云鳴尾の雲は
よき風くけしハけ雲のすくくき 樹、遙にわき
酒産の浦傍りよ 鳴尾の雲と云くははみくくはは
傍りの地名も 雲のすくくくははみくくはは
け雲と云傍りよや好也は雲と云くははみくくはは
よき

○ 天白橋

中三郎
長正寺

長正寺下鳴尾の中間橋を告るの巻

追加

○楊村^{芝罘}北^北 け色に^{あつ}ま^りて^いま^は 弘治^十年^元日
蚊^の封^の孫^の連^とは^蚊の^しり^のあ^らは^せぬ^とい^ふ

愛 知 県



1103269433